

ぜんしゅりきょり

2015
3月
March

通巻79号

平成26年度全国研修会を東京で開催!!

平成27年2月24日東京の榎エッサム神田ホールにて第2回全国研修会が開催され、全国各地から総勢57名が参加されました。今回は、3月よりスタートのプロジェクト『PRAY for (ONE)～小さな祈りのプロジェクト』をメインテーマに、プロジェクトのご案内、CM映像のお披露目、総勢7名によるパネルディスカッションを行い、今後展開していく『PRAY for (ONE)～小さな祈り』のプロジェクトのキックオフの日となりました。

小堀理事長挨拶



小堀賢一理事長

たくさんの方にお越しいただき、厚く御礼申し上げます。また、今日は「祈り」というキーワードで関係する

る団体の皆様にも多数お越しいただいております。後にパネルディスカッションの時に一人ずつご登壇の際にご紹介させていただきます。

「小さな祈りプロジェクト」についてですが、今はまだ迷いが取れない段階です。全宗協の研修会も数年前のカリキュラムを見ますと、例えば唐木仏壇の素材についてとかスベックに関する物が多く、また全宗協の中にもたくさんおられるのですが、伝統産業・工芸品という看板を掲げながら宗教用具を販売していたので、お客様にはそれが行き過ぎた表現になっていたかも知れませんが、しかし、『宗教用具・お仏壇』をなぜ求め



司会の吉田光宏氏

ていただくのか、お仏壇が必要だということをはっきりと分かっていただけたら、どうすればいいのかわからないところからスタートしました。

当初、スイスとフランスで仏壇の展示会をやらせませんかと言いました。つまり外国の方に気づいてもらい、それがまた日本にフィードバックされて日本人がその後で気づくであろうという考え方でした。「クールジャパン」という言葉が言われますが、海外の方にも評価していただけるような日本の文化、われわれが日常生活で行っている「祈り」というものがそつだと思えます。そのようなことで出来た映像ですが、これをどのように深化させ、肉付けして行くかということ、これからの大きな課題になると思います。広報委員長の保志さんに非常に努力していただいております。関連業界の方々からも資金を含め多大なご協力をいただけるように伺っておりますので、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



参加者のみなさん

【目次】	
P1	平成26年度第2回全国研修会開催 「PRAY for (ONE)～小さな祈りのプロジェクト」
P2	「小さな祈りのプロジェクト」CM製作発表 広報委員長 保志康徳氏
P3 P5	パネルディスカッション
P6	全日本仏教会よりお知らせ、事務局からのお知らせ



PRAY for (ONE)

小さな祈りのプロジェクト
prayforone.jp

PRAY for (ONE)は、日常にある「小さな祈り」を大切にするために、生まれたプロジェクトです。やり方も、時間も場所も、信仰も問われません。「誰か＝(ONE)を想う」それが祈ることの入り口です。



みんなが、毎日少しずつ、誰かのために祈ったら、世界はもっと優しく、美しくなれる。そう信じています。あなたは今日、誰のことを祈りますか。

ホームページも完成いたしました。あわせてご覧ください。

<http://prayforone.jp>



『小さな祈り』のプロジェクト CM製作発表

広報委員長 保志康徳氏



広報委員長
保志康徳氏

す。それでは出来上がりしましたCMをご覧ください。そこら説明に入らせていただきます。

(CM放映)

まずCMを作るのが目的ではありません。これが始まりのキックオフとなります。また三月一日が日曜日なので、日本香堂さんがスポンサーをしている全国ネットの「笑点」でまず流すようにご協力いただいております。それから随時我々の予算の中で、また今日お越しいただいている企業の皆様のご協力もいただいて、テレビやYouTube、あるいはお持ちのCM枠の中で流していただければと考えております。

『小さな祈り』のプロジェクトPRAY for ONE(ONE)プレイフオーワンです。が、「プレイ」というのは「祈り」のこと、誰かが大切な(誰か)のために祈りましょうということ。仏教用語で言えば「利他」。自分の願いのために祈るのではなく、誰かのために祈る新しい価値を創りましょうということ。仏壇仏具業界だけでなく、墓石・葬儀・仏教界、そしてお越しいただいている方々と話をしていくと、業界が段々と縮小しているとか、昔の様なイイ時代にならないかな……とかく暗い話になりがちです。それは端的に言いますと魅力が無くなっているということではないでしょうか？

ならば！

新しい魅力を皆で創りませんか！

それも大それたことをするのではなく、日常私たちが生活していく中でふと「こんな魅力があったんだ」と気づいていく、それが「小さな祈り」。そしてそこから大きな祈りにつながっていくのだと思っております。これから皆さんにも参画していただいて「小さな祈り」の意義を意識しながら普及させていければいいのではないかと思います。



定の教義を信仰して祈る。また、自己目的を達成するための祈り。そういったものを中心だと思えますが、今回の「プレイフオーワン」はプラスα、新しい祈り、感謝誰かのために祈ろうということ。特に若い人に「祈りってカッコいいね」とか、祈ることが社会的人格の向上や、周りから尊敬される人と思っていただけのようなところまでもついでにしたいのではないかと。一言で集約しますと、今生きている現在を明るく元気に生きられるための祈りの力というもの。を我々が発信して行ければいいのではないかと考えています。

これをやることによってうちの店がどれだけ儲かるのというメリットも大事です。我々業界は仏壇仏具などの「物」を提供していますが、消費者がこれを本当に欲しかったと思ってるかと言えば、それは少し「？」なところがあります。「物」売るためには価値・魅力のある「事」を作っていくなければなりません。それが新しい「祈り」です。そうしますと新しい需要も作り出して行ける。それがビジネス的な背景です。

活動期間ですが、まずは東京オリンピックまでが続けて行きたい。海外から来た人たちに、日本という国は人のために祈り、また人を慮る人が住んでいる。その根底には我々業界の「心の文化活動」がそれを支えているのだということをPRし理解してもらおう。我々一人一人もそのことを誇りに思い仕事をする。

今後の予定としては、今日がキックオフで、三月一日までにHPを立ち上げ、そこから活動が始まります。三月七日、八日、日本石材協会の「石博」が上野公園であり、そこでも活動を行います。四月五月からはCMの最後に皆様の企業の広告を有料で入れていただいていた放映をスタートし、そこでいただいたお金もこの活動に役立てて行きます。雑駁ですがこういうスケジュールを考えております。

色々なことでの活動を拡げて行きますが、まず一つ目として、このCMを毎年一本は作って全国各地のメディアで流します。二つ目はHPを立ち上げて一般の方もエントリーしていただいて活動に巻き込んで行く。三番目は、先ほどの鶴に祈りを込めて折り紙をする「祈り紙」や「祈りカレンダー」などの祈りグッズ販売。四番目は「祈り」について発言している著名な方々を集めてシンポジウムを行う。そして五番目は、全宗協の枠を超えて様々な方にご参加いただきながら全員で啓蒙活動を繰り広げて行きたいと思っております。

CMは三十秒と六十秒を用意しております。HPでは鶴の祈り紙に「こんなことを祈っています」と書き込めるようにし、それが千羽鶴のようになっていくというのがトップページになり、どういう祈りがされているか会社のマーケティングにも使えるようにします。

最後のまとめになります。これからは「祈り」の王道を行く。我々は社会貢献に努めているという誇りを持てるような活動にしたいと思っておりますので、ご理解ご協力宜しく願います。

パネルディスカッション

司会

吉田光宏氏 全宗協 総務委員長

保志 まずこの前身として、「ブッダ」という映画ができた時にそれなりのネットワークができていました。「ナムネット」という会があり、



何か世の中のためになる行動を起こそうと熱い思いを持っている方々の中に同席させてもらい、ここまで来ているかなと感じています。全宗協の組合を越え外に向かって手を携えられる人々と融和しながら、外の生活者・お客様に向け発信して行こうと、今日はお忙しい中皆様にお集まりいただいて、それぞれの立場からご発言いただければと思います。そして皆様の胸に響くところがありましたら、足並みを揃えてスタートを切っていただければとそんな考えています。

上野 一般社団法人日本石材産業協会の広報を担当しています。広報はまだ日が浅くて四年くらいです。実は私は石屋さんではなく、元々は大学を出てパソコンを作って、その後マーケティングの世界を経て、ご縁があって今都内で石材店と土地開発をやっています。石屋をやった時に一番感じたのは胡散臭さです。それで悩んでいたら四年前に広報を作る



ということになりました。真っ先に手を挙げました。内部向けはしてきているのですが、外部に向けての広報はまだ手掛け始めたところ

■新倉典生氏

全日本仏教会代議員 東京都仏教連合会 事務局長(善立寺 住職)

■石井時明氏

全日本葬祭業協同組合連合会 副会長 一般社団法人日本石材産業協会 広報委員長

■上野國光氏

全宗協 ニュージーター部門部長

■牧野圭太氏

株式会社 博報堂 テーマビジネス開発局 コピーライター

■保志康徳氏

全宗協 広報委員長

■安田元慶氏

全宗協 ニュージーター部門部長

す。広報にはお金をかけるかかけないか、この二つしかありません。後者は難しいのですが、プレスリリースで記事にしたらうのは費用をかけてやるのと同じくらい効果があります。今これを一生懸命やっています。去年やっと一般向けのHPを作りました。「お墓の窓口」ということでこの一年間活動をし、「お墓」はネットで検索される言葉の中では一番多く、常時上から五番目くらいにランクされていて、ようやく認知されて来たのかなというのが現状ですが、さらに一般の方に見てもらえるように活動をして行きますので宜しくお願いします。

石井 私どもは省略すると「全葬連」と言のですが、昭和三十一年に組合組織ができ、今の所全国の三七〇社が加盟する団体です。全国に五、六千ある業者の中で、数としては専門業者の中では日本最大の組織として活動しています。今年十月に六十周年の記念大会を横浜で開きます。加盟している小さな葬儀社が食べて行くためにはどうしたらいいかということとを重要視することになり、二年前にポスターを作り郵便局に掲げさせていただいています。約一か月間の活動だったので、地元結び付く広報ということでは良かったと思います。なかなか宣伝をし難い業界です。葬儀社というのは全然規制が無く誰でもすぐ始められます。「葬祭サービスガイド



ライン」を作り契約書で会員に守らせるようにしているのですが、なかなか浸透していないという現状です。全国の会員が同じレベルで一定以上の質を持ってやっていることを広報できたらいいと思っています。今回は他の皆様とコラボして発言させていただけることを有意義に感じておりますので、ぜひお知恵を拝借できればと思います。

新倉 本日はお招きいただきありがとうございます。私は現在足立区にある日蓮宗「善立寺」の住職をしています。全日本仏教会では広報委員を務めています。また東京都仏教連合会の事務局長も務めています。この連合会は都内二六〇〇寺院の内、九六%が十五の地区に分かれて加盟しております。他にも東京都の宗教法人係の下に組織されている東京都宗教連盟の事務局も預かっています。私がこつとした役職を拝命した十数年前は、所謂「寺離れ」が話題となっていて、これを何とかしなければ、というのが仏教界の命題でした。

バブル崩壊以降、失ってしまったお寺と社会の信頼関係を取り戻してほしいということがあります。「寺離れ」や「宗教離れ」には様々な要因があります。二十四年間住職をしてきて、今の時代に一番感じているのは、少子高齢化やネット社会において、個人主義化が進み宗教儀礼が形骸化し、宗教産業への需要が薄れてしまっていることです。勿論、一番反省すべきは、我々僧侶をはじめ宗教者のあり方であることは承知しております。



しかし、最近になって若い世代の宗教者に変化が見られます。社会の急変に対応できるように変わってきました。ですからこれからは「お寺」や「お坊さん」に期待していただきたい。ただ、仏教界だけで変わってもダメなんです。私たちが立ち上げた「ナムネット」のように、携わる各界の皆で考えなければ宗教儀礼の形骸化は止めることが出来ません。

その共通したテーマが「祈り」。このプロジェクトは東京オリンピックまで続けるということで、何か形になったらいいなと思っています。宜しくお願いします。

牧野 博報堂でコピーライターをしています。外から客観的に見てどう思うか話してほしいということに参加させていただきました。去年の六月くらいにこの「小さな祈りプロジェクト」のお話をもらったのですが、これほど面白い仕事は無いと思いました。楽しくて世の中に意味のある仕事ですので、ぜひやらせていただきたいと引き受けました。コンピューターが普及した社会ですが、この先また人間の方に振られて、祈るだとか他者のことを思うとかということが大切な世の中が来るべきだと思っています。世の中にとって意味のある仕事だと思えますので、今後とも手伝って行



祈るだとか他者のことを思うとかということが大切な世の中が来るべきだと思っています。世の中にとって意味のある仕事だと思えますので、今後とも手伝って行

ければいいと思っております。CMの「口」や映像を作らせてもらったのですが、今後はアクションが必要。以前弊社が環境省の「チームマイナス六%」という仕事をさせてもらった時のアクションはネクタイを外すというものだったのですが、あれは大変良かったと思います。大きなことを言っても伝わらないところを、個人のネクタイを外すという行動に置き換えることで一般社会の中に広く普及して行きました。今回もそういうことが組めないかということ、保志さんと一緒に考えたのが「祈り紙」。祈る」ということが文字としても近い。千羽鶴のような昔から伝わって来た文化をもう一度活用して「祈る」ということを認識してもらおう。こういった物を使い「祈る」ということを軸にいろいろ活動ができるのではないかと考えています。宜しくお願いします。

安田 このプロジェクトの一員としてこちらにおられる各団体・企業の皆様たちとお話して、様々学ばせていただいております。また、自己紹介などを伺って、NL部の部長として身が引き締まる思いです。「プレイフォワード」のグッズや映像が完成して来てまさにキックオフというところで、これから外に向かって一歩踏み出すという段階



にやっとたどり着きました。広報という点では今のトレンドや良いものを全宗協から発信して行きたいと思っております。PCやスマホなど毎日触れたり見たりする物を通じて「祈り」というものにたどり着いてほしいと思います。それを継続して行ってまいります。

司会 若い人たちは私たちの年代がカッコイイと思うものと違う物をカッコイイと思うことがあるのではないか。例えばコンビニに並んでいるお寺や神社のガイド。こういうも



のは何年前前にはありませんでした。コンビニにこのようなものが置かれるということは、若い人たちに「祈り」に

対するニーズがあるという。そういうことを考えながら如何に我々の扱っている「祈り」の大切さを広報して行くかが大事です。私の地元の小学校では毎年伝統産業に関する授業があり、先日その発表会がありました。「京仏具の未来」がテーマだったのですが、子供たちの多くが広報活動の大切さを書いていました。その良さをしっかりと伝えることこそが大切だと感じていたということ。そこでもう一度「プレイフォワード」の映像を見ていただきたいと思えます。(CM放映)ここで改めて「小さな祈り」をどのように思っているのか、お一人ずつお聞かせ下さい。

新倉 我々も含めていろいろな団体の方々が日本人の情緒である宗教儀礼や宗教産業の大切さというものをどう伝えて行くかについて話し合った時に、「祈る」ということが共通したキーワードでした。仏教では祈るということを「祈願」と言いますが、祈る行為と願う行為は違います。「自利」「利他」という言葉があります。「概には言えませんが「祈る」というのは他の利益、「願う」というのは自分の利益とした時に、今日本の社会はちゃんと他人のために祈れているのだろうかということにテーマを置きました。みんな小さな祈りをポケットには持っているのに気づかず、自分の事ばかり願っているのではないかと。祈る行為には神や仏の抛り所が要ります。ただ願うだけなら宗教産業も仏壇やお葬式も必要が無くなります。だから仏教界もちゃんと祈ることを教えていかなければいけない。ただ自分の満足だけを願うなら我々は必要あ

りません。

石井 我々が関わっている業種の中、法律が関わるものはたった一つで、死亡診断書を役所に提出することだけ。セレモニーをするとか宗教者を呼ぶことは何も法的根拠が無い。これまでは僧侶などを呼ぶことが歴史として当たり前のように続いてきましたが、個の世界になると何故そうするのか。ということになり、それが最近の現象です。「直葬」も増えています。色々な事情もあってそうせざるを得ない面もあるでしょうが、人を弔うことが「始末する」と捉えられてしまっているのではないかと。お金が無いという人も増えていますので、葬儀の担当者が勧めても宗教者を呼ばないケースも多くなっています。

う風習も薄れてきており、何とかしないと、将来が見えない業種になりつつあります。「始末」ではなく「弔う」ということに持つて行く使命を、「祈り」ということを通して構築して行ければと思っています。皆で発信して、日本人の持つている良いところを蘇らせたいと願っています。

上野 消費者は変わっていないと思います。納骨堂とか散骨とかが増えて、お墓を建てたいという人が減っていますが、親しい人を用いたいという気持ちは千年後も変わらないと思います。人の本質的な所です。マスコミでは変わったというので石材業界は右往左往していますが、変わったのは埋葬行動だけ。原因は核家族。お墓を作っても維持するのが大変なのです。家族墓を提案してもダメ。そこで親しい人を用うにはどうしたら良いのかと考えていたら、「小さな祈りプロジェクト」という耳に心地よい言葉が飛び込んで来て「これだ！」と思いました。これは消費者と対話できる、と。これに手を挙げようと石産協の理事会で話ましたところ、五十五名の理事のう

ち賛成三十二、白票二十一。白票は私の説明不足なので、重く受け止めながらこのプロジェクトに参加しています。皆さん、ぜひ鶴を折ってみて下さい。フツフツと感じるものがありますよ。喋るよりアクションが大切です。実はうちの会社で鶴を折らせたところ、ある女性社員がきれいに折りまして、その上にお線香を差したところお仏壇みたいなものがありました。彼女は次のステップに入っているのです。これをどうお墓に結び付けていくかが次のテーマです。





牧野

テクノロジーが進歩して世の中がどんどん便利になって行く。ではみんな幸せになっていくかと言えばそうではない。自殺者が増えているとか。今後は人間味を大切に世の中になるのではないか。そうなった時にこの「祈る」という行為が大切になるのではないか。昨日「祈り」に関する本を一冊買いまして読んだのですが、祈るといことが科学的に人体に良いと書いてあります。祈るといい遺伝子が活性化するのでがん細胞を弱める働きがある。気持ちよく祈っているとストレスも減るし、身体も元気になる。今後テクノロジーの進歩などで解決できない社会になった時に、祈るといことが日本ですごく大事なことになるのではないかと思っています。もう一つは、日本の宗教観とか祈るといこと

がいい文化だと世界から注目されているので、どんどん世界に広めて行った方が良いのではないか。仏壇仏具の展示会も海外でやってみようかと企画しています。

安田

「小さな祈り」は皆が心の中に持っています。今はそれを表に出す環境にありません。その最たるものがお仏壇。昔は各家庭にお仏壇があつて、手を合わせて祈るとい環境がありました。今はそれがありません。全宗協では「小さな祈り」を外に向かって発信し、豊かな環境を取り戻すことに努めていきたいと思っています。また、大切な人を通して祈るといことは、巡り巡って誰かが自分のために祈ってくれるということでもあります。腹筋運動や勉強と同じで、毎日「小さな祈り」を継続する事。それが大切だと強く思います。

保志

私たちの生業を通して優しさと強さを持った真実味のある人間が一人でも増えたら素晴らしいことではないか。名前は「小さな祈り」ですが、実は「大きな祈り」だと思います。

司会

皆様のお手元にあるのが「祈り鶴」です。これから実際にアクションを起こして行かなければなりません。その一歩としてこの「祈り鶴」を考えていただきます。その説明を上野さんをお願いいたします。

上野

説明するよりやりましょ。この紙の裏側に祈りを書けるところがありますので、何かそこに書いていただけますか。最初さえ間違わなければ大丈夫です。(実際にみなさんに祈り鶴を折っていただきました。)

どうですか? 「折る」と「祈る」は、かなり雰囲気変わってきますよね。ではできた方は目の前に鶴を置いてもらえますか。膝の上に手を置いて下さい。一緒に鶴にお礼を言います。「鶴さん鶴さんありがとうー」以上です。



みなさんで祈り鶴を折りました

できた鶴はお預かりしまして、三月七日の「石博」に来た一般の方に折っていただきっぱいになった箱の中に入れますので、後でお預かりさせて下さい。最後は新倉先生の所でお焚き上げしていただくということになっております。

司会

皆さん上手にできましたか? 折ってみた感想はどうですか? これからこのプロジェクトをどのようにして行けば良いのか、改めてパネラーの皆様にお聞きします。

新倉

とても難しい質問ですね。祈るといことをしますと神仏との距離が近くなります。祈ることを通して神仏や先祖様に対する感謝の気持ちにつなげて行く。これが宗教的な儀礼を見直すきっかけになると思います。ぜひこの祈り鶴をきっかけに「小さな祈り」を広めてほしいと思います。

司会

牧野さんのお話で、これからの社会は人間味を大切に作る社会になって行くのではないかとのお話があったのですが、「人間味」とはどのようなことなのでしょう?

牧野

私は博報堂で製作の仕事をしてい

るのですが、同世代の人のやりたいことは大体デジタル志向です。私はデジタルより折り紙の方が余程面白いと思えました。自分の手で折って一枚の紙が鶴になるといのはものすごく面白い文化だし、ものすごく人間味のある行為ではないのかと。それがもっともと広がればいいと考えております。

司会

人間は動物ではなく、また神でもない。神というのは無限で完全な存在であり、動物は有限で不完全な存在です。そして、人間もまた有限で不完全な存在。では、人間と動物の違いは何か。人間は神という完全な存在を意識する。そこが動物との違いです。自分不完全な存在だから、完全なものに祈りを届けたい。これは人間だけが持つ感覚です。そうすると人間味を大切に作る世の中とい

うのは、祈りを大切に作る世の中とも言うえるのではないかと。皆さんのお話を聞いてそう思いました。「祈り」といのは神仏に近づくこと。それを行うのは動物の中で人間だけ。我々の業界も、そういうことに携わっている大切な職業です。そういう大切なことをこのプロジェクトによってもっと伝えていければと思います。

(了)



全日本仏教会の使命

伝統仏教界の社会的存在意義の提示

全日本宗教用具協同組合に加盟されている皆さまには、平素より全日本仏教会傘下の 75000 カ寺が大変お世話になっておりますこと、心より御礼申し上げます。

昨年の 6 月より第 31 期理事長の職を拝命しております。今後とも宜しく願い申し上げます。

思えば、第 26 期(2004 年 4 月～2006 年 3 月)に事務総長を勤め、広報課題の克服を将来展望とする「改革推進委員会」答申のとりまとめ、「財団創立五十周年記念事業」ならびに、東京の浅草で行われた「WFB 世界仏教徒会議日本大会」の企画立案に関わらせていただきました。また、財団法人日本宗教連盟(当時)の事務局長を兼務しながら「保険業法改正問題」や「公益法人制度改革問題」などで官公庁に厳しく対応したことを思い出します。

ところで、現代社会には、不安、生きづらさ、孤独感が蔓延しております。合理的な思考と科学を絶対視し経済的豊かさを追求してきた結果、いのちの感覚、一人ひとりのかけがえのなさを喪失している状況であります。私ども仏教界の果たすべき使命は、いよいよ重大さを増していると認識するものであります。

一方、東日本大震災からの仏教界の動きに注目してみますと、緊急事態や地域復興における寺院の果たした役割は積極的に評価されるべきものがあります。国民の宗教離れ、寺院の地域との遊離が指摘されるなかで、仏教界のもつ公益性を社会に提示していくことは重要課題であります。

公益財団法人 全日本仏教会 第31期理事長
真宗大谷派 明順寺(東京都台東区)

さいとう あきさと
齋藤 明聖 氏



全日本仏教徒会議愛媛大会と財団創立六十周年に向けて

本年は、10月30日から10月31日にかけて「第43回全日本仏教徒会議愛媛大会」が開催されます。少子高齢化による人口減少、葬儀不要を主張する本が売れるなど、仏教界にとって厳しい環境が続く中、実りある大会になるよう、全力を挙げてまいります。また、全日本仏教会は二年後の 2017 年に、本会が財団となって六十周年の記念すべき年を迎えます。「六十周年記念式典並びに第 44 回全日本仏教徒会議」の開催、さらには三年後の 2018 年には「第 29 回 WFB 世界仏教徒会議日本大会」の開催を企画しております。奇しくも 2017 (平成 29) 年は東日本大震災で犠牲になられた方々の七回忌の年にあたりますので、被災地での開催が望まれているところでありますが、社会の負託に応える記念事業となるよう、叡智を結集してまいります。

全日本宗教用具協同組合に加盟されている皆さまには、それぞれの地域で、宗派、地域仏教会、寺院との良好な関係を維持していただくことはもちろんですが、この上とも、より広く一般社会に対して、わが国伝統仏教界の社会的存在意義、釈尊の慈悲と共生の思想をお伝えできますように協働していただきたく、この段宜しくお願い申し上げます。

四月八日は「花まつり」

今から2500年ほど前の4月8日、ネパール国ルンビニーの花園で、お釈迦さまは誕生されました。生まれるとすぐに7歩あるいて右手は天を、左手は地を指して、「天にも地にもただ独り私として尊いのである(天上天下唯我独尊)」と宣言されました。このとき空からは甘露の雨がふり、色とりどりの花を咲かせ、世界が輝いたと伝えられています。お釈迦さまの誕生をお祝いする「花まつり」に甘茶をかけるのは、この甘露の雨の表現なのですね。

日ごろ私たちは、無意識のうちに自分と他人を比較して優越感と劣等感のはざまのなかで生きています。お釈迦さまの誕生は、

そうした私たちに、私たちの人生は誰にも代わることのできない、また誰にも代わってもらわない必要のない、かけがえのないものであることを教えてくださっています。

日本全国各地で行われる「花まつり」では、地域社会の皆さまの協力を得て、法要のみならず、パレードやライブ、落語などがにぎやかに催され、子どもたちと共にお釈迦さまの誕生をお祝しています。全日本仏教会は、こうした宗派を超えた「地域と仏教」とのつながりを応援しています。

公益財団法人 全日本仏教会

事務局からのお知らせ

1. 当面のスケジュール

- 4月23日(木) 役員会 (株)エッサム神田ホール本社
- 5月19日(火) 第28回通常総会 (ANAクラウンプラザホテル神戸)
- 6月25日(木) 委員会、役員会 (メルパルク京都)

2. 組合員数 平成27年3月20日現在 370名

新規加入者 平成26年12月1日以降
(株)白寿殿 菅原宏和 様 (12月26日)

3. 組合関係者の訃報

(平成26年12月1日～平成27年3月20日)

【阪奈兵和地区】

(株)おの佛宝堂 代表取締役 斧 宏次様
ご尊父 斧 藤夫様
平成27年1月22日 89歳

【京滋地区】

(株)京念珠刑部 代表取締役 刑部貴行様
御祖母様 刑部阿以様
平成27年2月5日 96歳